

平成28年度

教育委員会事務事業の点検及び評価報告書

(平成27年度事務事業)

平成29年1月

増毛町教育委員会

## はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、学識経験者の知見も活用しながら、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとなっております。

このことから、増毛町教育委員会では、「増毛町教育事務執行の点検及び評価等に関する規程」により、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民に対する説明責任を果たすため、「教育に関する点検及び評価」を実施し、報告書をまとめました。

増毛町教育委員会としては、点検・評価の実施を通じて施策の効果的な検証と積極的な改善を図りながら、教育行政施策の着実な推進に努めてまいりたいと考えていますので、皆さんの一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 平成27年度 教育委員会事務事業の点検及び評価

### 【学校教育】

小学校2校（児童180名）、中学校1校（生徒105名）、幼稚園1園（園児27名）に在籍する児童生徒、並びに、幼児ひとり一人の個性と能力を伸ばし、心豊かで自主・自律の精神を身に付け、地域社会の形成者として必要とされる資質を養うことを目的として学校教育の推進を図ります。

#### （1）教育の充実

社会が目まぐるしく変化していく時代、子どもたちが将来自立した人間として生きていくためには、基礎的・基本的な知識と技能を確実に身につけ、それらを活用できる学力を育むことが重要であります。

そのためには、各学校において、学習指導要領に基づき、意欲的に学習し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などを身に付けることができるよう努めます。

また、教員は教育への情熱や指導力などの資質の向上が不可欠であり、広い視野、視点から自己研鑽を促し、指導力を高める校内、校外研修の充実を図ります。

#### （主要事業）

事務事業名	事業内容及び点検・評価
学校教育活動支援員の配置	児童生徒のいじめ・不登校及び学校諸問題への対策として、増毛中学校へ支援員を配置した。 学校の諸問題について指導助言、支援を行い、教育活動充実が図られた。
少人数指導教育の推進	指導方法工夫改善事業の教員加配により、チーム・ティーチングや少人数による習熟度別学習指導を行い、効果的な教科指導が図られた。 実施校 増毛小学校（指導方法工夫改善加配1名） 増毛中学校（指導方法工夫改善加配1名） 指導教科 小学校（国語、算数）、中学校（国語、数学、英語） 基本的な学習の定着を目指して実施しているが、今後も継続して実施が必要と考えている。 なお、次年度以降も両校で加配を要望することとしたい。
外国語教育の充実	小学校高学年の英語必修化及び中学校での英語教育の充実を図るため外国語指導助手を配置し、町内小中学校、幼稚園、保育所への巡回指導のほか、社会教育分野でも事業展開を行っている。 英語担当教員と連携した指導を行うことで、授業の充実が図られた。
長期休業中の学習機会の拡充 （学生ボランティア学習サポート事業）	夏季・冬季休業期間に短期学習会を実施し、教員、学生ボランティア講師により自習の補助を行った。 夏季休業 ・7月27～28日、8月17～18日 会場：増毛小学校 小学生37名参加（全学年） ・8月4～6日

	<p>会場：増毛中学校 中学生93名参加（全学年）          冬季休業 ・1月15日、18日          会場：増毛小学校 小学生48名参加（全学年）          ・1月13～15日          会場：増毛中学校 中学生87名参加（全学年）          基礎・応用問題を習熟度に応じ、個々に取り組むことにより、基礎学力の向上を今後も図って行きたい。</p>
学校図書活動の充実	<p>計画的な図書購入により学校図書の充実を図った。          図書購入費 小学校233千円 中学校194千円          各学校で朝読書等の図書活動を行っているが、読書が生活の一部として習慣づけが、まだまだ不十分であり、今後も学校図書を充実し、図書活動を進めて行きたい。</p>
特別支援教育の充実	<p>特別な支援を必要とする児童生徒個々に対応した適切な教支援体制の充実を図った。          特別支援学級数 増毛小学校 4学級（7名）          舎熊小学校 1学級（1名）          増毛中学校 4学級（5名）          計9学級（13名）          増毛小学校に特別支援教育支援員を1名配置し、支援指導体制の充実を図っている。</p>
要保護準要保護就学援助事業	<p>生活保護受給世帯及び生活保護に準じた援助が必要な世帯の児童生徒に対し就学援助を行った。          小学校 11名 7世帯 336千円          中学校 10名 8世帯 931千円          学用品費、給食費、修学旅行費などの援助を行い、保護者の経済力による教育格差の是正が図られた。</p>
健康診査の実施	<p>学校保健安全法に定められた児童生徒の健康診断（内科、歯科、心電図、脊柱側湾症）を実施した。          また、教職員の健康診断を実施し健康維持管理を図った。          今後も法律の規定に基づき、児童生徒の健康診断を実施するとともに、教職員の健康診断についても、学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資するため実施する。          教職員健康診断の実施については、町職員の検診実施機関に依頼し経費の軽減と事務の効率化が図られた。</p>
給食事業	<p>各学校において、栄養バランスを考え、積極的に地元食材を使用した美味しい自校給食を行った。          また、栄養教諭が各学校を巡回し、食育指導の推進を図った。          ・給食設備維持費、人件費等の公費負担経費          小学校費 12,278千円          中学校費 6,808千円          ・栄養教諭巡回          献立打合わせ 月1回（全校）          食育授業 各学期に1回（学校要請による）          適切な衛生管理・栄養管理のもと、学校給食の運営を行うことができた。</p>

防災指導	<p>災害等の発生時に冷静・敏速・安全に行動ができるよう、各学校において避難訓練を実施した。</p> <p>増毛小 火災 6月17日、地震津波 9月 1日          舎熊小 地震津波 9月 1日          増毛中 地震津波 9月 1日          幼稚園 地震津波 5月12日、9月 1日</p> <p>避難訓練を通じ、児童生徒の防災意識を高めることが出来た。</p>
教育振興会事業	<p>町教育振興会が主催となり、児童生徒の学習成果をとおして学校間の親睦と交流を深めるため各事業を実施した。</p> <p>7月10日 児童陸上記録会          10月16日 音楽交歓会          11月 4日～11日 絵画書道展</p> <p>各事業を通じ、地域的連帯感を育み、児童生徒の学習意欲の向上が図られた。</p>
ICT教育の環境整備	<p>ICT教育を推進するため、校内無線LANの環境整備と教育用タブレットの購入を行った。</p> <p>小学校 1,358千円          中学校 1,156千円</p> <p>小・中学校共に環境整備と教育用タブレットの購入（各学校10台）を行い、ICT教育推進の基盤構築が進められた。</p>
教材備品の整備	<p>児童生徒の教科指導に必要な学習教材備品の購入を行った。</p> <p>小学校 教材備品の購入 216千円          中学校 教材備品の購入 448千円</p> <p>教材備品の購入・更新を行い、教育環境の充実が図られた。</p>
教材費の助成 (保護者負担の軽減)	<p>児童生徒の教科指導に必要な一般教科費の助成を行った。</p> <p>小学校 消耗教材費助成 538千円          中学校 消耗教材費助成 393千円</p> <p>消耗教材費助成を行うことで、保護者の負担軽減が図られた。</p>
児童生徒の傷害保険掛け金の全額負担 (保護者負担の軽減)	<p>学校生活における児童生徒の負傷等に対応するため日本スポーツ振興センターの災害共済に町費で加入した。</p> <p>加入金額 幼稚園 7千円、小学校2校 163千円、          中学校 95千円</p> <p>学校内で児童生徒が負傷した際の医療費について、保護者の負担軽減が図られた。</p>
スキー授業への援助 (保護者負担の軽減)	<p>冬期間の体育授業（スキー学習）におけるリフト使用料の全額援助を行った。</p> <p>援助額 小学校2校 480千円          中学校1校 264千円</p> <p>リフト使用料の全額援助を行うことで、保護者の負担軽減が図られた。</p>
中体連参加費の助成 (保護者負担の軽減)	<p>管内大会及び全道・全国大会参加費用の助成を行った。</p> <p>管内大会 全額助成 368千円          全道大会 参加料・交通費全額助成、宿泊費一部助成          助成額 881千円          出場種目 サッカー、陸上、卓球、吹奏楽、スキー</p>

	<p>大会参加費用の助成を行うことで、保護者の負担軽減と部活動の推進が図られた。</p>
<p>中学校武道必修化に伴う柔道着の整備 (保護者負担の軽減)</p>	<p>平成24年度から中学校体育授業において柔道が必修となったため、柔道着を町費で購入した。 購入費 173千円 1年生に対し柔道着を町費で購入し、保護者の負担軽減が図られた。</p>
<p>小学校新入学児童へのランドセルの寄贈 (保護者負担の軽減)</p>	<p>平成28年度の新入学児童へ、小学校の1日入学時にランドセル(ナップランド)の贈呈を行った。 増毛小学校新1年生 児童数 22名 152千円 ナップランドの贈呈により保護者の負担軽減が図られた。平成6年から行われているこの事業は、保護者にも定着しており事業継続が望まれる。</p>
<p>中学校新入学生徒へのカバン、ジャージの寄贈 (保護者負担の軽減)</p>	<p>平成28年度新入学生徒へ、入学祝い品としてカバン・ジャージの贈呈を行った。 増毛中学校新1年生 生徒数 35名 767千円 特別支援学校 1校 生徒数 1名 20千円 入学祝い品の贈呈により保護者の負担軽減が図られた。前年度から行ったこの事業は保護者にも喜ばれており、事業の継続が望まれる。</p>
<p>スクールバスの運行</p>	<p>遠距離通学児童生徒の登下校のためにスクールバスを運行のほか、各種校外活動等においてもスクールバス運行を行った。 安定したバス運行により乗車する児童生徒の登下校の安全確保が図られた。 また、校外活動においてもバスを運行し、保護者負担の軽減と教育活動の充実が図られた。</p>
<p>学校評議員の設置</p>	<p>小中学校に学校評議員を設置した。評議員の任期は1年、保護者・地域住民等で構成している。 増毛小 5名、 舎熊小 3名、 増毛中 4名 評議員の意見をもとに、地域に根ざし、ひらかれた学校運営が推進されている。</p>
<p>教育団体への助成</p>	<p>児童生徒の指導研究を行う「増毛町教育振興会」など、町内の教育団体への助成を行った。 増毛町教育振興会 290千円 増毛町複式教育協議会 40千円 教職員の指導力向上、教育環境の支援と充実が図られた。</p>
<p>幼稚園教育の充実</p>	<p>幼児一人ひとりの発達の特性を踏まえ、多様な体験と知的発達を促す活動、体力づくりなど、就学前の教育の充実に努めた。 教員数 園長1名 教諭3名 公務補1名 就園児数 4歳児13名 5歳児14名 計27名 園内活動のほか、保育所との合同交流会を行い、就学に向けて交流が図られている。 また、各家庭との連携を図り、保護者の幼児期の教育に関する理解を深めてもらい、保護者が幼稚園と共に幼児を育てるという意識を高めていきたい。</p>

<p>高等学校生徒への通学費の助成</p>	<p>増毛高校の閉校に伴い、留萌市内の高校へ通学する生徒の保護者に対し通学費の助成を行っている。          助成生徒数 55名 助成総額 5,146千円          通学費の助成を行うことで対象家庭の経済支援が図られた</p>
<p>小学校統合に伴う交流授業</p>	<p>舎熊小学校の閉校に伴い増毛小学校へ転校する児童が、新たな教育環境で戸惑いや不安を抱かせないために合同学習等を行った。          合同学習          第1回 11月16日 交流授業(6時間)、交流給食          第2回 11月17日 交流授業(5時間)、交流給食          保護者説明会 2月10日          多くの児童が、幼年期を増毛幼稚園やあっぷる保育所で一緒に通園していたため、児童間に隔たり無くスムーズな合同学習が行われた。</p>

(2) 学校施設等の環境整備

児童生徒が、安全、安心でより快適な学校生活を送れるように、学校施設の補修・改修を行います。

また、老朽化している町内の教職員住宅の補修、設備備品の更新を行い、教職員の生活環境の改善を図ります。

(主要事業)

事務事業名	事業内容及び点検・評価
<p>各学校の維持管理補修</p>	<p>学校運営に欠かせない校舎・設備等の修繕を行った。          幼稚園 計 518千円          ・建物基礎部分補修 ほか          小学校 計7,378千円          ・増毛小全室網戸設置(3ヶ年計画、3年目)          ・増毛小駐車場拡充工事 ほか          中学校 計2,165千円          ・給食調理室エアコン設置工事 ほか          児童生徒が安全に学校生活を送れるように、限られた予算のなかで教育環境の改善を図っている。</p>
<p>教職員住宅の環境整備</p>	<p>教職員住宅の改修・設備備品等の更新を行った。          教職員住宅修繕費 1,444千円          設備備品等修理費 856千円          教職員住宅に居住する教職員の生活環境の改善を図っている。          今後も計画的に進めて行きたい。</p>

## 【社会教育】

社会教育の目指すところは「人をつくる、育てる」ことであり、生涯を通じて学習できる場や機会の創出に努め、健康でたくましい心身を養うスポーツ活動の充実や、国際化・情報化に対応できる人材を育成するほか、文化活動の充実など、「住んで誇りに思える増毛」を創出する社会教育を通じたまちづくりに取り組んでおります。

また、町民への行事等のお知らせとして「社会教育だより」を毎月発行しております。

### (1) 学習や社会参加への意欲を高める生涯学習活動の推進

町民の皆さんが生涯にわたり生きがいとゆとりを求め、自らの資質向上や学習活動が展開できるように各種情報を提供し、団体・個人のサークル活動等の支援に努めております。

次代を担う子どもたちが家庭や地域で様々な体験活動や地域活動に参加することが大切であり、研修事業などの活動を促進し、青少年の健全な育成に努めております。

#### (主要事業)

事務事業名	事業内容及び点検・評価
三世代交流事業 [幼児・高齢者]	12月18日、文化センターで幼稚園児・父母、暑寒大学との世代間交流を目的として開催し交流を深めた。 核家族化が進行する中、三世代が一堂に会し一緒に活動することは、幼稚園児の世代にとっては互いに助け合い、いたわり合う心の育成が図られるたいへん貴重な体験であり、今後も継続する必要がある。事業内容としては、参加している父母の世代が、もっと積極的に関わるものとする必要がある。
中学生の国内研修 [少年]	3月25日～3月29日、関東方面へ4泊5日の研修を実施した。参加者は中学1～2年生15名、普段体験できない歴史や文化に触れ、意義のある研修となった。また、研修の成果を向上させるため事前研修を10回、事後研修を1回開催した。 参加者にはたいへん貴重な体験であり、好評な事業のため、今後も継続する必要がある。
なんでも体験隊 [少年]	自然や文化の体験活動を通じて団体活動し、心身ともに健全な子どもを育成する目的で、町内史跡・施設見学、文化センター宿泊体験、リンゴの文字入れ・収穫・ジャム作り、札幌市内での宿泊体験及び施設見学や災害時のための炊き出し講習会など年間8回の事業を行った。参加者は小学4～6年生 延264名。 参加者にはたいへん貴重な体験であり、好評な事業のため、今後も継続する必要がある。
子ども会ジュニアリーダー修学旅行 [少年]	7月30日～31日、大雪青少年交流の家に宿泊し、旭川市・美瑛町で研修を実施した。小学4～6年生32名が参加。 団体活動で子ども同士の交流を深めることによって、仲間を思いやる心や最後までやり抜く精神力や身体を育て、リーダーの育成を図ることができた。 この事業に参加した子どもは、ごだらっぺ王国祭の実行委員になることになっているが、近年それがいやで参加しない子どもが出てきている。ごだらっぺ王国祭の実施も含め、検討しなければ



	ならない状況となっている。
少年の主張大会 [少年]	小学生9名、中学生3名の発表者により、11月23日文化センターで開催した。 聴衆の前で自らの考えを発表することは貴重な体験であり、今後も各学校と連携を図りながら継続する必要がある。
ごだらっぺ王国祭 [少年]	9月23日文化センター及び体育館で開催、小学4～6年生34名の実行委員が企画し、幼児・小学生340名の参加があり、全町の幼児・小学生の有意義な交流が図られた。 しかし、実行委員や育成員の確保など、運営上の改善点もあり、中学生リーダー（手伝い）の確保、出店・ゲームの時間調整、ゲーム内容など、次年度にむけて実施の再検討が必要である。
キッズ体験会 [少年]	小学3、4年生21名が、7月19日（日）に、札幌市の「モエ沼公園」の自然公園での体験、「チョコレートファクトリー」での白い恋人作り体験を行った。 この体験会は、社会教育事業に慣れてもらう参加導入的事業の意味合いで実施しており、多数の児童の参加を得ていることは喜ばしいが、今後の自覚につながるような指導の継続と内容の工夫が必要と思われる。
増毛少年少女 発明クラブ [少年]	創造性豊かな子どもを育成する目的で、基礎工作・アイデア工作で毎回作品を制作するほか、社会見学旅行で旭川科学館での体験学習や、町内施設見学では元陣屋での社会体験活動など年間21回の事業を行った。小学3～6年生の発明クラブ員25名延参加者433名。 近年、道具の利用や説明を聴く力などが低下しており、事業全体の再検討が必要と思われる。
スイーツづくり教室 [青年・成年]	青年層の組織づくりへの導入事業として、また、成人の様々な学習機会を提供するため、小平町から講師を招き、スイーツづくり教室を全1回の日程で実施した。15名の参加。 継続性のある青年・成人領域の活動を図るためには、青年・成人が自ら意欲的に事業に関わる組織づくりの取り組みが必要と思われる。
ストレッチポール 教室[青年・成年]	青年層の組織づくりへの導入事業として、また、成人の様々な学習機会を提供するため、天塩町から講師を招き、町民からの要望が多かった初心者向けのストレッチポール教室を全4回の日程で開催、参加者は延べ56名。 継続性のある青年・成人領域の活動を図るためには、青年・成人が自ら意欲的に事業に関わる組織づくりの取り組みが必要と思われる。
さくらコミュニティ 学級 [女性]	町内の70歳までの女性を対象に、毎月第2火曜日に学習会や実技講習など年12回開催し、趣味・料理教室・研修旅行等の学習会などを行い、男女共同参画社会への推進を図った。今後も豊かな人間性を培うとともに生活の向上に努めたい。学生数は44名（前年度と同数）。 新入生の確保を図るため、事業内容等の再検討が必要と思われる。

暑寒大学 [高齢者]	町内の65歳以上の方を対象に、学習会・講演会・施設見学など毎月第2、第4金曜日に年20回の行事を実施した。 趣味・レクリエーション・健康等の学習会などの開催に努め、高齢者の生きがいを見いだすよう努めた。 今後は更に参加しやすい環境整備を図っていきたい。 学生数は59名（対前年度比4名増）。
---------------	--

※近年、少年教育の事業を実施している中で、「静かに話を聞けない」、「自己中心的で仲間とうまく関われない」、「挨拶ができない」、「食べ物の好き嫌いが著しい」、などの家庭教育での基本的な躰ができていない子どもが多く見受けられるようになり、団体活動に支障をきたす場面が出てくるようになってきました。少子化にあって一学年が20数名となっている現状では、一人一人の子どもの行動が団体行動に及ぼす影響が大きくなっており、家庭・地域・学校での連携した家庭の教育力の向上を図る取り組みが急務となっている。

## (2) 地域文化の創造を目指す芸術文化活動の推進

芸術文化は、人々に感動や生きる喜びをもたらし、豊かな人生を送る上で欠かすことのできない役割を担っております。

活動の拠点として、文化センターや総合交流促進施設「元陣屋」がより身近に親しむことの出来るように、施策・施設の充実に努めております。

また、重要文化財「旧商家丸一本間家」については、増毛町の歴史を内外へ発信しながら、保存・活用に努めております。

### (主要事業)

事務事業名	事業内容及び点検・評価
増毛町文化祭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品展示（出品8団体） 10月24日～11月3日、元陣屋で開催。</li> <li>・舞台発表（出演9団体） 12月13日、文化センターで開催。 文化協会と共催し、文化活動の奨励と発表・交流の場をつくり、創造性豊かな心のかん養が図られるよう展示、舞台部門をそれぞれ開催した。文化協会の活性化を図る必要がある。</li> </ul>
芸術鑑賞会	5月20日に増毛中学校体育館で、中学生を対象とした「音楽鑑賞会」として、ゴスペルシンガーkikiさんのコンサートを開催した。 迫力のある歌声と巧みな話術で終始中学生を引き付けた迫力のある公演となった。日常鑑賞することの機会が少ない舞台芸術を体験し、非常に有意義な体験ができた大変好評であった。
全町書き初め大会	1月12日町立体育館で開催、参加者67名 町文化協会と共催で実施。事業の周知及び教育関係者の協力を得て、近年は参加者が安定している。 今後も継続する必要がある事業である。
団体・サークルへの支援援助	増毛町文化協会（加盟27団体）へ、総額117千円の助成を行った。
親子で学ぶ英会話教室	親子で生の英語に触れ合う機会を提供するため、町のALTによる

	<p>英会話教室を全5回の日程で開催した。</p> <p>あいさつなど基本を中心にした英会話や時には歌も交えながらのレッスンであったため、楽しんで参加していた様子が伺えた。今後も継続して開催していきたい。参加者延42名</p> <p>A L Tの有効活用と参加者の増を図る必要がある。</p>
重要文化財 旧商家丸一本間家の 公開	<p>一般公開は4月24日～11月4日までの179日間、入館者は7,608名（前年度比477名増）であった。</p> <p>また、入館者の増加につなげるため、一般公開中に継続して芸術文化鑑賞事業を実施した。</p> <p>「増毛町地域の文化創造推進事業」</p> <p>本間家ミニ縁日の開催</p> <p>5月30日、31日 参加者数延べ317名</p> <p>能登谷安紀子コンサート</p> <p>6月20日開催 参加者数52名</p> <p>福島の民話語り</p> <p>9月18日、19日 参加者数延べ72名</p> <p>その他、「茶菓サービス」の実施、企画展として「船大工の世界」と「手帳に見る本間泰蔵」を開催した。</p> <p>観光施設としての側面もあり、次年度も、重要文化財に更に親しんで頂くようにイベント等の企画に取り組んでいきたい。</p>
史跡標柱の設置	<p>増毛町指定史跡のうち29カ所に標柱の設置を行った。</p> <p>（設置4月13日～撤去10月22日）</p> <p>また、平成23年度から毎年1箇所の史跡の紹介看板を設置しているが、本年は「秋田藩元陣屋第二台場跡」史跡に設置し、今後も年一箇所の設置を予定している。</p> <p>また、町内の史跡を紹介する史跡マップを町内拠点施設等に配布した。</p>
文化財保存団体への 助成	<p>増毛町指定無形文化財「雄冬神楽」保存会へ63千円の助成を行った。</p> <p>また、増毛町指定有形文化財「巖島神社本殿」保存会へ17千円の助成を行った。</p>
旧商家丸一本間家 関連資料の調査と 活用	<p>閉館作業終了後、臨時職員1名により本間家に関連する文書、書簡資料及び陶器、漆器などの生活資料、約1,200点の調査を行った。</p> <p>様々な書簡や連絡資料などにより、明治末期から昭和初期における本間家の取引関係や親族との付き合い、当時の物価や建物の変遷などが徐々に明らかになっている。</p> <p>新たに判明した資料については、次年度以降の企画展の開催において主要な展示として活用していくとともに、来館者への説明資料としても生かしていく。</p>

### (3) 健康で活力ある生活を目指すスポーツ活動の推進

スポーツ活動は、健全な心身の発達を促し、人間性を豊かにすると共に、健康で文化的な生活を営む上で重要な役割を果たし、「誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツに親しむことが出来る社会」が理想的な生涯スポーツ社会といわれています。

心身ともに健康で豊かな生活を送れるよう、生き生きとしたスポーツ活動の実現に向け、各種団体との連携を図り、スポーツ環境づくりに努めております。

#### (主要事業)

事務事業名	事業内容及び点検・評価
スポーツ団体への支援援助	<p>① 体育協会への助成 加盟11団体、会員数319名、425千円の助成を行った。スポーツ関係団体が、高齢化や会員の減少傾向にあることから、継続し事務局を担い団体の育成・強化に努めた。</p> <p>② スポーツ少年団本部 加盟6団体、会員数106名、216千円の助成を行った。また、事務局を担い、各少年団の連携を図っている。</p>
第5回健康づくりウォークラリー	<p>新たな健康づくり事業として、平成23年度からウォークラリーを開催し、今年度は5年目を迎えた。 7月5日(日) 町内の約5kmのコースをオリエンテーリングし、ゴール後は文化センターにて昼食をとり、参加者の交流を図った。天候に恵まれ56名が参加、安定した参加者数があり、好評のため、今後も継続して実施する必要がある。</p>
第40回アップルコース全町マラソン大会	<p>9月13日(日) 暑寒公園をスタート・ゴールとした、1.8km、3.2km、5.0kmの各コースに172名の参加申込みがありましたが、雨天(雷注意報)により中止となった。 親子の部や一般の部も増加傾向にあり、今後も関係者と協議し工夫しながら更に一層の活性化を図りたい。</p>
第5回暑寒別岳ジャイアントスラローム大会 (補助事業)	<p>町スキー連盟の主催事業に100千円の助成を行った。 大会は、暑寒別岳スキー場で3月13日に開催し、170名の参加があった。</p>
スポーツ交流大会 (委託事業)	<p>① 28回増毛リトルカップサッカー大会(主催:サッカー連盟) 男子小学4年生以下及び女子小学生を対象とした全道でも歴史ある大会。 8月8日~9日開催、全道各地から12チーム、選手170名の参加。</p> <p>② 第19回フレンドリーカップ少年野球大会(主催:野球連盟) 7月26日開催、増毛町と留萌市からの3チームの野球少年団が 増毛町を会場に開催。選手60名参加</p> <p>③ 第26回サーモン杯争奪ミニバレーボール大会 (主催:ミニバレーボール連盟)</p>

	<p>9月20日開催、留萌・羽幌・幌延など近隣市町村から15チームのミニバレー愛好者73名が参加し、増毛町を会場に開催されている伝統ある大会となっている。</p> <p>各種スポーツ交流大会については、町外からの参加者にとっても好評な事業になっており、増毛町への交流人口の拡大に向けても期待できる事業になっており、今後も継続して実施する必要がある。</p>
--	--

#### (4) 社会教育施設の活用推進

住民の多様なニーズにあった学習や交流の場が出来るよう、文化センター、総合交流促進施設「元陣屋」の運営充実に努めます。

スポーツ活動の推進を図るため、体育館・屋内グラウンド・温水プール・学校体育館の開放充実に努めます。

##### (主要事業)

事務事業名	事業内容及び点検・評価
文化センター	<p>文化サークルや地域住民の集会施設としての利用も多く、文化活動や地域づくりの拠点施設として管理運営に努めた。</p> <p>開館日数359日、利用人数23,419名(前年度比853名減)</p>
総合交流促進施設「元陣屋」	<p>開館日数307日、入館者12,821名(前年度比507名増)、そのうち、図書室の利用は、利用人数2,164名(前年度比80増)、貸出冊数8,537冊(前年度比782冊減)であった。</p> <p>*町の読書を普及させる拠点としての役割を強化するため、平成23年度から下記の事業を実施し、読書活動の活性化を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おはなしポトフセレクション」を曜日の午後1時から30分間 幼児と小学校低学年を対象とした絵本の読み聞かせ事業 全6回 参加者数延べ68名</li> <li>・「おはなしポトフ・プチ」を乳幼児検診時に実施。 幼児とその親を対象とした絵本の読み聞かせ事業 全6回 参加者数延べ76名</li> <li>・「こどもシアター」第2・第4日曜日の午後1時30分から約2時間の幼児・児童向けの映像ソフト鑑賞事業 全24回 参加者数延べ123名</li> <li>・「移動図書館事業」各施設月2回程度 各小学校・保育所・学童保育での絵本の読み聞かせや本の貸し出し事業 全53回 貸出冊数1,589冊</li> </ul> <p>*幼児・こどもを対象とした事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「フジワラトシカズ紙芝居公演」 参加者数42名</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あべ弘土絵本ワークショップ」 参加者数37名</li> <li>・「元陣屋まつり」 参加者数43名</li> <li>・「ハロウィンでトリック・オア・トリート」 参加者数70名</li> </ul> <p>元陣屋企画展「雄冬神楽展」 参加者数417名 元陣屋特別展「史跡に見る歴史の息吹」 参加者数1,022名 などの継続事業を実施。</p> <p>毎年、工夫をこらして各種事業を実施しているが、子どもの読書離れが進んでおり、絶えず事業内容の見直し・検討が必要と思われる。</p> <p>「大正琴サークル」、「シェイプアップサークル」、「映画サークル」などの文化協会加盟団体の定期的な活動や町民文化祭における展示部門の開催も行われており、芸術文化施設としての役割も大きい。</p>
創作の館	<p>陶芸サークル、革工芸サークルの2団体が定期利用、暑寒大学やさくらコミュニティ学級、少年少女発明クラブの学習活動でも利用された。</p> <p>場所的に不便さもあるが、設備も整っており、技術の向上とコミュニティ醸成の場として有効に活用されている。</p> <p>開館日数129日、利用者945人（前年度比49名減）</p>
町立体育館	<p>町民のスポーツ・レク活動の拠点とし、施設の充実と利便性に努め健康増進とスポーツの普及に努めた。しかし、施設の老朽化が進んでおり、長期的な整備計画が必要な状況となっている。</p> <p>開館日数303日、利用人数9,636名（前年度比855名減）、定期利用団体数6団体で6,313名、個人利用は3,323名</p>
屋内グラウンド	<p>平成25年度に人工芝への改修工事を行い、健康で安全な利用環境となった。また、平成26年度からは個人利用も可能となった。</p> <p>定期利用団体数は7団体で、町民のスポーツ・レクリエーション活動の拠点として施設の有効利用に努めた。特に冬期間のスポーツ振興には大きな役割を担っている。開館日数303日</p> <p>団体利用人数10,557名（前年度比1,163名増） 個人利用人数 411名</p>
温水プール	<p>町民の健康維持と体力向上が図られる施設として管理運営に努めた。しかし、施設の老朽化は進んでおり、今後の安全な運営に向け改善計画が必要である。</p> <p>開館期間5月1日～9月23日まで125日間開館 利用人員は、4,079名（前年度比204名減）</p>

学校体育館の開放	<p>増毛中学校体育館を 10 名以上の団体・グループに開放し、定期的な利用により、町民の健康と体力の向上並びにスポーツ人口に対する効果的な学校施設の利用促進に努めた。</p> <p>開放時間 週3回 18時45分～20時45分まで</p> <p>利用団体 2 団体（増毛バレーボール愛好会） （舎熊スポーツサークル）</p>
----------	---

## 学識経験者意見

増毛小学校学校評議員 南山岩男  
増毛町社会教育委員 西元章夫

### 【学校教育】

- 増毛町では、教育活動支援員を配置して、いじめや不登校などの諸問題の早期解決や指導助言を行っているほか、特別支援教育支援員による障がいのある児童生徒への学習・学校生活の支援、また、学習効果をより高めるための学習支援員を配置するなど、子どもたちへの支援体制を大いに評価したい。
- 「中一ギャップ」と言われるように、中学校入学後に授業や学校活動について行けなくなり、不登校やいじめにつながるものが指摘されている。その解消として小・中連携の取組が重要となってくるが、増毛町では小学校と中学校の子どもたちの交流活動が実施されているほか、教職員の実践交流が図られていることは望ましい。
- 子どもの読書ばなれ多くなっている昨今、子どもの読書活動は大切であり、楽しみながら読書に親しめる工夫や環境づくりが必要であるが、学校と元陣屋図書室との連携が図られていることが望ましい。また、各学校のカリキュラムに読書時間を設定していることに評価したい。
- ALT（外国語指導助手）を配置して、教員と連携した授業をとおして児童生徒の英語教育の充実を図り、さらには、幼稚園、保育所、親子教室などでも英会話の楽しさを教えている。また、次期の小学校学習指導要領の改訂では、英語教育が益々重要視されることから、これからもこの取り組みはたいへん重要である。
- 増毛町は、各校における栄養バランスのとれた美味しい自校給食を実施している。また、食育の推進につても計画に基づいて、指導、啓発に努力していることは大いに評価したい。
- ICT 教育の充実のため、校内無線 LAN の整備や、学級の児童生徒人数分の教育用タブレットの導入は高い評価に値する。しかし、使用できるアクセスポイントは普通教室だけで、校内全域に整備することが望ましい。
- 増毛町は長年にわたり、子育てに優しい施策として、保護者の教育費負担軽減に積極的に取り組んでおり大いに評価できる。今後は、給食費についても一考する余地があるのではないかと考える。
- 防災教育として、学校は町と連携して「地震津波」を想定した避難訓練を実施して、防災意識の高揚を図っている。しかし、地震津波は何時起こるか予測が付かないのが現実である。もし、冬に起きた場合、夏場の避難場所は雪に覆われており、児童生徒はどこに避難するのか、確実な場所の確保が必要ではないか。



## 【社会教育】

- 毎月「社会教育だより」が発行され、社会教育の一ヶ月の経過や翌月の予定などの動きも良く分かり、町民生活の活性化のためにもたいへん良いことである。
- 子どもの健全な育成と家庭教育の低下に対応するため、各種の少年事業は大変充実している。これは留萌管内の他市町村には見られない増毛ならではの取り組みである。今後も、事業内容等の課題について検討し、さらに充実を図り継続してほしい。
- 子どもの教育は、家庭・学校・地域の連携と言われているが、1 / 3の役割ではないはずである。家庭教育が一番大きいと考える。しかしながら、共働きの親が多く、子どもたちに関わる時間が少ないのが実情のようである。家庭の中で子どもとの関わりに工夫を凝らすことが必要であり、その自覚を促すための親学の講演会や研修会の開催、本の紹介、啓発活動など、継続的に取り組んでいくことが大事である。
- 家庭教育・地域教育力等の充実を図る啓発活動として、「親子の時間」のチラシを町内全戸に配布して成果を上げている。さらに、この啓発を実のあるものにするために、新たなアクションを起こす必要がある。
- 今の児童生徒は、「希薄な人間関係」「体験不足」等により、コミュニティ能力に欠けると言われている。それらが原因で「不登校」「引きこもり」等々が社会問題化している。そこで、コミュニティ能力を高めるために、集団生活体験としての「通学合宿」の実践はどうだろうか。
- 暑寒大学は 65 才以上を対象に、学習会、講演会、施設見学、レクリエーションなど、高齢者の生きがいを見いだすよう努めていることに評価したい。最近では男性の加入者も増え、雰囲気も一段と盛り上がり活性化していることは大変喜ばしい。
- 重要文化財「旧商家丸一本間家」の公開に関わって、単に文化財の公開のみではなく、増毛の民話影絵紙芝居の上演を始めとして、各種の増毛町芸術文化施設活性化事業のイベントを企画していることにより、さらに親しんでもらえるという意味で大いに評価したい。さらに充実を図れるような企画と PR の方法も工夫してほしい。このことは、地域文化の活性化にも大いにつながること請け合いである。
- 増毛町では、生涯スポーツ社会の推進にむけて、各層で様々な事業を展開しているが、シニア向けの事業が少ない。高齢者が「健康で生きがいのある生活」をおくれるためには、病気にならない体力づくりは大切である。そのためには、シニア向けのスポーツの奨励を推進していくことが肝要であると考えます。
- 教育委員会が管理している施設には、老朽化が進んでいる箇所が見られる。利用者の安全性などを考えて、早め早めの補修を行う必要がある。